

令和2年4月20日発行（毎月1回20日発行）第66巻4号

ISSN 0036-4398

# 産業車両

産業車両と荷役機器



4

2020

一般社団法人  
日本産業車両協会

ションにより詳しく説明していた。

ブースの中央には、SLAM 式 AGV「キーカート」と自律モバイルロボット「AiR-T (エア・ティー)」による先進的な物流現場が紹介され、多くの注目を集めていた。

【株式会社日立インダストリアルプロダクツ】

「物流の Digital Innovation パートナーへ。」をキャッチフレーズに、日立グループ 4 社による出展として、労働者人口の減少や EC の拡大などにより、物流センターに求められる機能が大きく変わろうとしている中で、サプライチェーン最適化、物流センター高度化、輸配送高度化に貢献するためのソリューションも提案を行っていた。自動型ピッキングロボット「AIROBO」、小型無人搬送「Racrew」を用いたシステムや物流の業務改善化を支援するソリューションが PR されていた。



【村田機械株式会社】

“MURATA E-Logistics” をテーマに、前回 2018 年の国際物流総合展で初お目見えしたスマート



AGV「Premio XI0」を使用して実演を行っていた。新システム「ALPHABOT」は物流センターのみならず小売店舗やショッピングセンターでも活用でき、ピッキング、搬送、出庫すべての場面において自動化ニーズに応えている。先進的な AI、IoT 技術を駆使し次世代の物流システムを開発している。

【株式会社ジャロック/マルイノベーション】

共同出展ではなかったが、ジャロックが国内販売代理店契約を結び、マルイノベーションの AI 搭載型 AGV を販売していくことが初日に発表された。倉庫や工場構内の床の「地紋」を読み、記憶、学習しながら進化する技術を持ち合わせた最先端 AGV を紹介しており、遠隔地からの操作、正確なロボット管理、トレサビリティ機能などの高性能技術により、省人化と効率化に貢献するイノベーションを展開していた。



2. AGVS セミナーの開催

本会では、2019 年 8 月に AGVS 導入ガイドブックを作成し、電子版 (PDF) として希望者に無償で提供しているが、直接の申込件数は 100 件を超え、会員企業を通じて提供したものも含めれば、もっと多くのご関心が寄せられてものと考えられる。

また本会が原案作成を担当した JIS D6802「無人搬送車システムに関する用語」も 2019 年 3 月に発行され、世界初となる無人搬送車システムの安全規格 ISO3691-4 も 2020 年 2 月に発行されたことなど、規格関係の新たな動きもあったことや、加えてかねてより国土交通省に無人搬送車システム等による物流効率化に対する導入支援制度の実現を要望していたものが、令和 2 年度に実施される